

年間取扱概要

1 総取扱高

平成24年1月～12月における青果物の総取扱高は、数量301,420t、金額57,938,104千円であった。前年と比較すると、数量は3,328t増(1.1%)で前年を上回り、金額は1,028,857千円減(▲1.8%)と前年を下回った。

数量は、野菜は前年並み、果実はやや上回った。

金額は、野菜は下回り、果実はやや上回った。

2 部別取扱高

(1) 野菜

数量は、道内産野菜が春先の低温と生育期の天候不順により野菜全般に生育の遅れにより、入荷数量は減少傾向にあった。また、道外産野菜についても、1月から3月の低温、干ばつの影響を受け、野菜全般に生育の遅れや小玉傾向となったが、その後は道内産、道外産ともに高温、干ばつ傾向であったものの台風などの天候不順の影響による被害も少なく、概ね順調な入荷となり、全体としては総取扱量238,252t(前年対比0.5%)で前年並みとなった。

金額は、ここ数年単価高だった「たまねぎ」「ばれいしょ」などは、単価を下げ平年並みから安値となったことから、取扱金額39,452,404千円(前年対比▲3.1%)と前年を下回った。

平均単価は166円(前年対比▲3.5%)と前年を下回った。

(2) 果実

数量は、野菜と同様に道内産果実は春先の低温等の影響を受けたが、その後天候の回復に伴い「メロン」「スイカ」などは豊作傾向となり、入荷数量は増加し前年を上回った。道外産果実は夏の高温、干ばつの影響で着色の遅れや小玉な品目が多かったが、台風などの天候不順の影響による被害も少なく「もも」「かき」など概ね順調な入荷となり、全体としては総取扱量63,168t(前年対比3.5%)で前年を上回った。

金額は、道内産果実の「メロン」「スイカ」の生育の遅れから入荷当初から単価安傾向で推移した。

道外産果実は、昨年は数量少なく単価高だった「りんご」が順調な入荷となり、平年並みの単価となったが、全体としては取扱金額18,485,700千円(前年対比1.3%)で前年をやや上回った。

平均単価は293円(前年対比▲2.0%)と前年をやや下回った。